

大阪有機化学工業株式会社	
第 72 期定時株主総会 質疑応答要旨	
日 時	2019 年 2 月 27 日 (水) 10 : 00~11 : 12
場 所	ヴィアーレ大阪 4 階 ヴィアーレホール (大阪府中央区安土町三丁目 1 番 3 号)

【質疑応答要旨】

Q-1	工場の火災が多く、大阪でも最近数件あった。 当社の火災対策について教えてほしい。
A-1	【生産本部長 林優司】 当社でも 2017 年 3 月 10 日に金沢工場 12 プラントで火災が発生した。株主、関係者ならびに周辺住民の方々に陳謝いたします。 設備洗浄のためのサンプリング時にアースが外れた結果、放電が起こり火災になった。除電設備の全面見直しを行い、クリップの強化と 2 重化を実施し、排気設備の設置も昨年ほぼ完了した。 また、年間保安計画を作成し、静電気に関する座学にて、従業員の意識強化を図っている。火災が起こった実際の設備をモニュメントとして金沢工場に保管し、事故を風化させないようにしている。 さらに、年間保安計画に基づいて、津波や火災時の訓練を定期的に行っている。
Q-2	世界的に化学品が低調な中で、直近の需要の状況について説明してほしい。
A-2	【代表取締役社長 上林泰二】 化成品事業について、当社主力製品の 4-HBA など競争力のある製品は伸びているが既存品は下がっていく。したがって塗料関係は基本的に横ばい。 全体的には昨年未ぐらいから中国の影響で減速感がある。ただ、半導体に関しては、新聞紙上では半導体装置関連は急速に減速しているとのことであるが、原料メーカーである当社は現時点まで堅調であるが、今後については注視していきたい。
Q-3	近年、地震や風水害などが多い。 地震が起こった場合の対処について説明してほしい。
A-3	【代表取締役社長 上林泰二】 地震の初期対応としては、まずは安全第一ですぐに生産をストップする。 そのあとの問題として情報が止まってしまうというリスクが大きい。そのため、サーバーをデータセンターに預けて、データのやり取りがストップしないようにしている。 また、原料供給や出荷への BCP 対策を構築し、実施対応している。 【生産本部長 林優司】

	工場としては、まずはプラントをストップさせて従業員を非難させる。年間保安計画で避難場所や状況判断について取り決めて訓練をしている。また、インフラが滞ってしまった場合には、社長を中心とした対策本部を設けて対応していく。
Q-4	研究開発に力を入れているようだが、年間にどれくらい特許を取っているか教えてほしい。
A-4	【技術本部管掌 安藤昌幸】 年によって違うが、総じて年間 20 件程度。そのうち半分程度は特許公告までいく。

以上